

### 1.主管理項目について

#### ①草丈の抑制(徒長防止対策)

- ・草丈の徒長は、果梗枝が細くなり果実の肥大に影響します。

#### ②茎葉や果実の整理

- ・玉出しや芽の整理、摘花で果実の肥大促進と品質向上。

#### ③施設内の適正管理

- ・高温対策や電照調整、炭酸ガスの適正な管理。
- ・高温期にかけての遮光対策(極端は光合成の鈍化)3月中旬
- ・水管理、肥料施肥の適正化に努める。

### 2.一般的な管理について

#### ①温度管理

- ・日中は26℃～28℃(午後)を保ち夜温は6℃をキープする。
- ・炭酸ガス施用中での日没加温(3時間)は実施する。
- ・降雨時の高温(暖雨)の早朝は施設を開けて徒長抑制する。

#### ②水管理

- ・温度上昇と共に吸水・蒸散量は増すので少量多灌水とする。
- ・地温15℃前後で吸水量は増す1株200～250cc

#### ③電照

- ・芯葉の葉柄の高さを確認して時間調整する。(3/初旬迄)
- ・芯葉の展開が鈍化傾向の場合は、早朝電照とする。

#### ④炭酸ガス施用

- ・サイド面の開閉時までは施用する。
- ・春先でも果実の多い場合は施用することで効果あり。

#### ⑤防除

- ・ダニ、アザミウマの的確な防除を行う(収穫期の延長)。

#### ⑥茎葉の管理

- ・生育に応じた玉出し、摘果作業で果実や葉に受光を良くした品質向上。

### 3.施肥管理について

#### ①果実肥大を良好にする施肥

「10a当り施肥量」

「光合成作用で生成した養分を分配するには**水分とカリ肥料**です」

#### 【果実肥大促進・日持ち対策】

- ・**カリっと**⇒7～10日置きに1kgを灌水処理
- ・**ウルル18号又はふとる**⇒5～7日置きに5kgを灌水処理
- ・**コラーゲン・ラボやウルル2号**と併用は300gを混用処理

#### 【根域の維持対策】(P、Ca、微量元素の吸収力アップにも)

- ・**アミクエ**⇒7～10日置きに5～10kg灌水処理

#### 【果実の硬化や日持ち、ガク枯れ対策】

- ・**カル元気**⇒5～7日置きに2～3kg灌水処理
- ・葉面散布の場合には、1000倍処理

又は **有機カルトップ**⇒7～10日置きに300～500g灌水処理

#### 【徒長抑制・果実肥大促進対策】

- ・**PKゴー**⇒5日置きに2000倍の葉面散布
- ・灌水処理の場合には、300～500g処理

#### 【食味向上・生育安定対策】

- ・**コラーゲン・ラボ**⇒5～7日置きに5～10kg灌水処理

#### 【生育促進対策】

- ・**ウルル2号**⇒5～7日置きに5～10kg灌水処理

地温(15℃)の上昇と共に吸水量やN吸収量は高くなります。